

伏見町再開発ニュース

分科会報告 ～「夢あふれる広場を」～



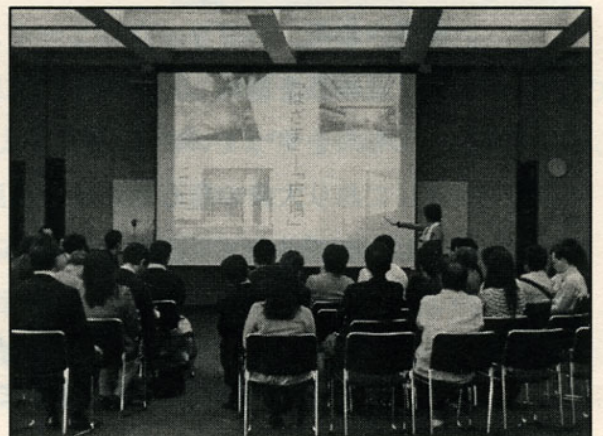
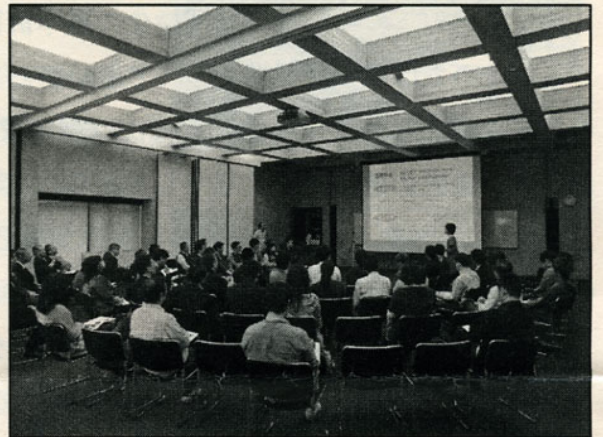
福山青年会議所が、10月27日(土)に「まなびの館ローズコム」大会議室において「夢があふれる広場を」という分科会を開催されました。

講師に富山グランドプラザ運営事務所勤務の山下裕子氏を迎えて、広場の運用などについての講演や参加者とのディスカッションが行われました。

伏見町再開発でも広場を検討していますので、先進事例として報告します。

《講演内容》

- 広場とは「モノゴト」を興す場所である。道路は本来立ち止まってはいけない場所であるのに対し、広場は立ち止まれる場所。
- グランドプラザは再開発で市道を区域中心に付け替えて整備した広場。当初は百貨店の荷下ろし場として使う計画だったが、富山市の発案により道路指定を外して広場とした。
- 幅21m、奥行65m(約1400㎡)、広場の端から端で人の表情や仕草がぎりぎりわかるサイズが偶然生まれた。
- 県内初の大型ビジョン(277インチ)を備えている。また、屋根を設けたことで悪天候によるイベントの中止がないことが利点である。
- 広場をつくれば人が集まるというわけではない。グランドプラザは百貨店と駐車場の間で人が行き来する場所につくられたから成功した。つまり通路としての機能を持たせることが大事。
- 広場が通路であれば歩いて通る → 歩くと出会う → 出会うと立ち止まり、とどまることができるのが広場。道路は立ち止まらない。
- 街にとって広場とは、「にぎわいの核」、「街歩きの拠点」、「街の情報発信基地」。行政が、公共事業として「広場」を整備し管理運営に関わり、賑わいづくりを「継続的」に行っている。



○ 広場成功の5つのポイント

① まちなかの超一等地を広場にする

広場をつくるなら日ごろから人がきている場所につくるべきである。

② 思い切った計画（予算）をたてる

当初アーケード状の屋根を検討していたが、いい雰囲気をつくるため、高価なガラス屋根とした。

③ なるべく自由な広場を整備する

道路を使用するには、警察の許可がいる。自由に使用できるように行政が、道路指定を外して、広場条例を制定し管理している。

④ 屋根をかける

⑤ 使用料を徴収する

「使用料の支払いが可能な催事者は集客力もある」という考えから、使用料を払ってでも使いたくなるスペースづくりを目指している。

○ アイデアいっぱいの市民とそれを応援する企業の架け橋（お見合い）を市が担うマッチング事業を行った。通りかかるたびにいつも面白いことをやっている印象を持たせることが大事。

○ 土日はイベント、平日は遊びの場を提供した。

人間は子どものころ楽しかったことを記憶にとどめる。そこで子ども達にきてもらい、まちなかの記憶を育むための「グランドプラザであそぼう！」を企画。にぎやかな景色をつくることができた。

○ 昨年度より、高齢者向けのイベントに力を注いでいる。



積み木遊び



アイススケート



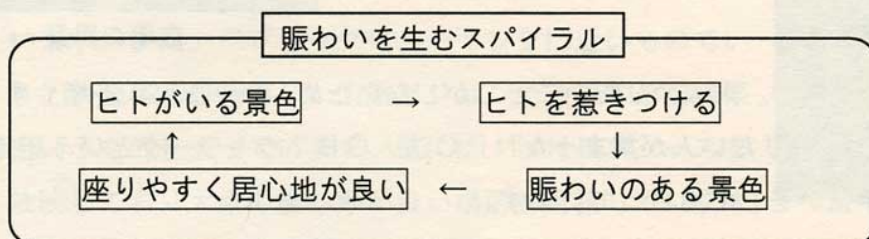
愛のハンドマッサージ



平日の様子

○ 日常において次のようなスパイラルが重要

人がいる景色が人を惹きつけ、人が集まれば賑わいのある景色が生まれ、賑わいの中で人は居心地の良さを感じることができる。



○ 歩いて暮らせる街づくりが大事と考える。歩いて暮らすと、人と出会い、パン屋や雑貨屋に寄り道をするようになる。寄り道をすれば小銭を使う。小さな買い物ではあるが交流や消費が生まれ、街の活性化につながる。

《ディスカッション》

【テーマ① 使いたくなる広場】

参加者：自分が使うなら、歌ったり、ギターを弾いたりしたい。

山 下：広場で歌うのはストリートライブと違って人がいるところで歌うので発表の場という雰囲気になります。

参加者：グランドプラザでスケボー、ローラースケートをやることは許可されていますか。

山 下：禁止はしていないが、マナーやルールを守らない人にはしっかりと注意しています。また、設備等を壊したら、警察に届け出るなど厳しい対応を取ります。ただ、ストリートカルチャーはまちの魅力にとっても重要だと思っており、BMX（競技用自転車）の大会などはしています。

参加者：公共施設は浮浪者のたまり場になりやすいと思うが、どういった対策をされていますか。

山 下：あえて浮浪者の方には、あいさつをしたり、話しかけたりしている。また、清潔な雰囲気づくりを心がけており、ゴミ拾いに力を入れています。

参加者：グランドプラザの組織はどうなっていますか。

山 下：当初3年間は富山市が運営し、その後、㈱まちづくりとやま（三セク）が指定管理者として市から委託を受け、運営しています。委託料として年間4,000万円を受領しており、全部を使用料でまかなえるのが理想ですが、使用料収入は1,300万円です。グランドプラザの事務所スタッフは、事務担当、現場担当、営業担当（私）の3人。

参加者：大学生の関与や企業の応援、あるいは市の支援で一番役に立ったものは何ですか。もしくはこういう人に応援してもらいたいとかありますか。

山 下：そんな都合よくはいかない。人はやりたいことしかしないため、やりたい人を増やすことに力を入れました。現在は、やりたい人が集まったNPO法人GPネットワークという組織ができ、イベント設営等の手伝いをしてもらっています。

参加者：全国的に「にぎわい広場」の事例がなかったとのことだが、何をポイントに視察されましたか。

山 下：その当時、私はいなかったが、大型ビジョンや屋根のあるところを見に行くと聞いています。また、ヨーロッパの広場を参考にしたいのでしょうか。



広場の風景

〔テーマ② 行きたくなる広場〕

参加者：屋根がかかっているが、明るくて、風通しがよさそう。見た目も大事だと思います。

山 下：グランドプラザはガラス屋根で、光が差し込むようにつくられています。また、舗装は御影石を使用しています。

参加者：隣に百貨店があったから成功したのだと思う。百貨店の魅力があって、イベントがあって、面白いから人が集まる。こうしたサイクルづくりのコツみたいなものがありますか。

山 下：イベントを目的にくる人には限界があり、イベント目的外の人も集まることが大事です。地ビールを広めるイベントを開催したら、これまで地ビールに興味がなかった人も通りがかりに参加しており、新しいファンの開拓にもつながったようで翌年は売上が1.4倍に伸びた。

また、同じことを続けていても人は飽きるため、様々な企画を考えることが大事です。

参加者：グランドプラザができたことで商店街は、変わりましたか。広場と街の相乗効果は？

山 下：広場だけの成果ではまったくないが、イベント等で常にまちなかに人があつまり、活気が出ました。ただ、広場で人を集めるが、そこから先は商店の努力が大事です。グランドプラザだけのイベントでは点に過ぎないが、同じ日にグランドプラザの外でもイベントを仕掛けることで点から線になります。最近ではそういった動きが出てきており相乗効果を感じています。

〔テーマ③ 福山らしい広場〕

参加者：駅前には再開発の種地があります。福山城があってそこに快適な広場があればよいと思います。

（新しい）中心市街地活性化の基本計画もできていない状況で、福山らしさを駅前だけで考えるのではなく、郊外も含めて思い切った都市施策が必要ではないでしょうか。

参加者：福山らしさは福山城。福山は創業家が多く、新しいチャレンジ、若者を応援する広場がいい。

山 下：会社の創業祭を広場でしてもらったら、おもしろいかもしれない。福山は大学も多いようなので、学生と共同でイベントを行うなど、企業と若者の両方の力を発揮することも期待できそう。

参加者：電車の待ち時間などの暇つぶしをする場がほしい。

W i - F i 接続が出来たりパブリックビューイングが行われていたりする広場がいい。

山 下：グランドプラザは、W i - F i 接続が出来るようにしています。また、パブリックビューイングに近いものでいうと映像作品を募集し、大型ビジョンで放映する映像祭というものをやっています。他には、NHKニュースを放映しており大衆の居心地が良い場所を目指しています。今後は、相撲中継も行っていきたいと考えています。



再開発について何かご不明な点などございましたら、
いつでも事務局にご相談下さい。TEL 084-931-2208



【発行】福山市伏見町市街地再開発準備組合
〒720-0062 福山市伏見町 2-4